

原子力規制庁記者ブリーフィング

- 日時：平成28年7月15日（金）14:30～
- 場所：原子力規制委員会庁舎 記者会見室
- 対応：松浦長官官房総務課長

<本日の報告事項>

○司会 それでは、定刻になりましたので、ただいまから原子力規制庁の定例ブリーフィングを始めたいと思います。

○松浦総務課長 それでは、私の方から2点御報告があります。

まず、第1点目は、皆様のお手元にあります広報日程についてでございます。

私からの補足説明につきましては、まず、2ページ目、(3)番、7月19日火曜日、特定原子力施設監視・評価検討会でございます。

議題といたしましては、東京電力の方から陸側遮水壁の状況についてお話を伺います。今後、東京電力の方が、いわゆる第2段階に移行するに当たりましての安全上問題がないかを議論する予定でございます。

議題の2番目でございます。こちらにつきましては、ALPSによる処理水をタンクに貯留し続けた場合に廃炉作業に与える影響につきまして、東京電力の方からお話を伺う予定でございます。

続きまして、(4)番、7月19日火曜日の審査会合でございます。こちらにつきましては、日本原電の東海第二発電所につきまして、越流津波、防潮堤を超える津波という意味での「越流津波」という用語を使っておりますけれども、越流津波の防護設計について日本原電の方からお話を伺う予定でございます。

続きまして、7月20日水曜日、(6)番、原子力委員会と原子力規制委員会との意見交換会でございます。こちらにつきましては、議題にありますように、原子力分野の人材育成につきまして原子力委員会と規制委員会の間で意見交換が行われる予定でございます。

続きまして、(7)番、国立研究開発法人審議会 量子科学技術研究開発機構部会でございます。議題といたしましては、そこに書かれておりますように、量子科学技術研究開発機構の前身であります放射線医学総合研究所の平成27年度の業務実績評価及び第3期中期目標期間に関する実績評価について、量子科学技術研究開発機構の方からお話を伺う予定でございます。

続きまして、3ページ目、(11)番でございます。第5回燃料・材料技術評価検討会でございます。こちらにつきましては、今週の水曜日に委員会で決定されました今後の安全研究プロジェクトの実施方針に基づきまして個別のプロジェクトの事前評価をする

ということで、今回は2件の燃料・材料分野の事前評価をする予定でございます。具体的には、1番目に格納容器の構造健全性についての安全研究の事前評価、2つ目として計装設備の長期健全性についての安全研究について、事前評価がなされる予定でございます。

続きまして、同じく3ページ目、3. 要人面会についてでございます。島崎前原子力規制委員会委員との面会についてでございます。こちらにつきましては、今週水曜日に、いわゆる基準地震動の再計算について島崎前委員から御提案のあった計算結果について、委員会で議論したところでございます。こちらにつきまして島崎前委員の方からまた御意見があるというふうなお手紙を頂きましたので、この件に関して来週火曜日に田中委員長、石渡委員、島崎前委員との間で面会をする予定でございます。

広報日程は以上でございます。

続きまして、2点目でございます。こちらは昨年10月6日、当ブリーフィングにおきまして原子力規制庁の新人用研修資料とその講義ビデオの外部流出について説明した際、私の方から事実関係の調査として原子力規制庁内の内部調査と翻訳委託先の調査を開始することについても申し上げたところでございます。

今般、当該2つの調査が終了しましたので、その結果について説明いたしたいと思っております。

まず第1に、内部調査として、サイバー攻撃、メールの送信、外部記録媒体、オンラインストレージによる持ち出しについて原子力規制庁内部で調査したところでございますけれども、いずれも流出は確認できなかったところでございます。

第2に、翻訳委託先の調査として、当庁より翻訳委託先に調査依頼を行いまして報告書の提出を受けたところでございますけれども、翻訳委託先の情報管理体制に不備ないし漏れがあった事実は認められなかった旨の報告を受けたところでございます。

以上のように、流出原因等について事実関係は判明しなかったところでございますけれども、原子力規制庁としては、再発防止策として、引き続き原子力規制庁の文書管理の内規である「情報セキュリティポリシー」等の徹底、翻訳等の外部委託先への守秘義務の徹底に取り組んでいく所存でございます。

私からは以上でございます。

<質疑応答>

○司会 皆様からの質問をお受けしたいと思います。いつものとおり、所属とお名前をおっしゃってから質問の方をお願いします。

それでは、質問のある方は手を挙げてください。

ヒガシヤマさん。

○記者 朝日新聞のヒガシヤマです。

島崎さんの件で確認させてください。御意見があるということですが、基本的

に抗議であるという認識でよろしいでしょうか。それから、手紙はどのような形で、ファックスなのか、郵送なのかというのを教えてください。

○松浦総務課長 抗議であるかどうかは認識の問題ですので、島崎さんが火曜日にいらっしゃいますので、そのときにどういうふうに言うかということだと思います。私の方から、その認識について申し上げることは適切ではないと思います。

あと、頂いたのは、広報室長、メールですか、これは。

○司会 メールで頂いています。

○松浦総務課長 メールで最終版は本日の朝に頂いたところでございます。

○記者 規制委員会として今後対応をどうするのだという話は、来週の面会を受けて改めて検討するということになりますか。

○松浦総務課長 この面会を受けて、前回、今週もそうでしたけれども、規制委員会のほかの委員は出られていませんので、ほかの委員への報告ということも兼ねて規制委員会で議論することになると思います。

○記者 これはもう来週の委員会という、早ければそれぐらいのスケジュールになりますか。

○松浦総務課長 そうですね。火曜日に島崎さんはいらっしゃいますので、それを取りまとめた上で、できるだけ早くと思いますので、水曜日になるのではないかと思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかにございますでしょうか。

シゲタさん。

○記者 NHKのシゲタです。

また関連して島崎さんの件なのですけれども、水曜日の時点では島崎さんは納得されたというふうに規制庁側は説明していたと思うのですけれども、その御認識は今も変わらずでしょうか。

○松浦総務課長 どうもそれが、これは言った、言わないの世界ですし、我々、実際に事務方が言っていますけれども、事務方の感じの違いもあると思いますので、どうも島崎さんはそうではないというような御意見も頂いておりますので、それはまさに火曜日に島崎さんの方からお話しなされるのだと思います。

○記者 確認なのですけれども、具体的にいつごろ会われてどのように説明されたのか、改めてお伺いしてもよろしいですか。

○松浦総務課長 これは今週の水曜日の午前中に当方の事務方から島崎先生の方に説明したところでございます。我々の計算結果と、あと、委員会の様子もユーチューブで生放送されていますので、それも見ていたというふうに聞いています。

○記者 残り1点なのですけれども、水曜日の委員会では、再計算の結果、見直す必要はないという結論に至ったと思うのですけれども、島崎さんからの意見を踏まえて、その考

えはまだ変わらないという状況ですか。

○松浦総務課長 今朝、新しい島崎先生からの御意見を伺ったばかりですので、また火曜日に島崎先生の方から直接説明を伺えるということですので、それを踏まえて委員会で議論をして、結論を出すことになると思います。

○記者 ありがとうございます。

○司会 ほかにございますでしょうか。

シュゾウさん。

○記者 毎日のシュゾウです。

2番目の情報流出の件ですけれども、これは何か報告書という形でまとめたのでしょうか。それと、その報告書みたいなものを公表する予定というのはあるのでしょうか。

○松浦総務課長 内部調査として、こちらは膨大な過去のログなどの記録を確認したというもので、報告書というものは我々としてはまとめていません。委託先の方は我々の方から報告書の提出を求めていますので、何通にも及んでいますけれども、報告書はあります。

ただ、報告書の公表については、こちらは事柄の性質上、個人名がかなり入っていますので、我々から公表するつもりはありませんが、いずれにしても、頂いたものは行政文書ですので、通常の法令の手続に従って情報公開請求されれば、我々として対応するということになると思います。

○記者 例えば、どういうところを具体的に何人から話を聞いて、どういうところをちゃんと調べたのかというのは、文書として出していただかないと、本当にちゃんと調査が徹底されたかどうかということは分からないのではないかと思います。そこら辺の御認識はいかがですか。

○松浦総務課長 我々として報告書を見た限りでは、しっかり調査されたと思っております。ですので、シュゾウさんの方で情報公開請求されて、当然、プライバシーにかかわるところなどは黒塗りさせていただきますけれども、そこは確認していただければと思います。

○記者 確認ですけれども、結局、流出が確認できなかったというのは、これは経路が分からなかったという意味であって、流出したことは事実だという認識は変わらないのでしょうか。

○松浦総務課長 それは本来、我々がシュゾウさんにお届けしていないものをシュゾウさんが事前に持っていたので、それは流出以外に考えられないのではないのでしょうか。それはシュゾウさんが一番御存じではないのでしょうか。

○記者 分かりました。

○司会 ほかにございますでしょうか。

タナカさん。

○記者 雑誌科学のタナカです。

大飯の地震動の件でなのですけれども、水曜日の定例会見でのやり取りの中で、小林総括官のお答えの中で、今回の計算は時間がかかったのではないかという問いかけに対して、小林さんが一からパラメータを設定したので時間がかかりましたという趣旨でお答えになっていました。

この意味をちょっとお尋ねしたいのですけれども、これまでの審査の中で、規制庁の中で、電力会社さんが出されてきた情報をもとに、規制庁の中でそれがきちんとその計算が合っているかどうかという検証をされてこなかったのかなど。そういうことをされてきているのであれば、手元に計算手順みたいなものをお持ちで速やかに計算も出せるのではないかなというふうに思うのですけれども、そうではなかったというふうに小林さんのお答えがあったので。

○松浦総務課長 やり取りは私も聞いておりましたけれども、技術的な話ですので、ここで私が答えるべきものでもないと思いますので、具体的には小林の方にまた聞いてもらえれば良いと思いますが、ただ、私も計算結果は内部の検討の中で聞いておりますけれども、相当、作業としてはパラメータの設定等、大変な作業だったと思いますので、それなりの時間はかかったというふうに思っています。

○記者 報道ベースの話なので、今後、島崎先生のお話を確認してからになりますけれども、既に報道されている内容によれば、島崎先生は大体これぐらいになるのではないかという数値もお示しになっているようで、それがかなり違うわけですね。規制委員会から2日ほどの間に島崎先生はそういう、大体これぐらいではないかという数字をお持ちになれるのに、規制庁さんの方の計算の大変さというのは、簡単に言ってしまうと、変えないために計算を合わせているので、時間がかかったのではないかなという憶測を呼ぶような、そういうことになっていないかなと思うのですけれども、どうなのでしょうか。

○松浦総務課長 島崎先生がどのように計算されたのかは、まさに火曜日の午後に我々に説明があると思いますし、我々がどういうふうに計算したかについては、原課の方にお問合せいただければ良いと思います。その上で判断していただければと思いますので、タナカさんの憶測について、私からは今、現時点でコメントはできません。

○記者 済みません、聞けと言われたのですけれども、中で検証されているかどうかだけ御存じなのではないでしょうか。

○松浦総務課長 関西電力のパラメータですか。

○記者 電力会社が出されてきたこの数字ですよというのが確かにそうなるかというのは。

○松浦総務課長 具体的な検証の仕方まで私は把握していませんので、耐震課の方に聞いていただければと思います。

○司会 ほかにございますでしょうか。

シズメさん。

○記者 1点だけ事実関係の確認ですけれども、共同通信のシズメです。火曜日の島崎さんとの面会は、これは規制庁から求めたものですか。それとも島崎さんから説明したいというふうに持ちかけたものなののでしょうか。

○松浦総務課長 我々の方から、前回の経緯もあり、前回、具体的にこちらに来ていただいて意見交換をしましたので、今回も御意見があるということなので、こちらに来てフルオープンで皆さんに御覧いただく形で意見交換をこちらとしてはしたいということで島崎さんに申し込んで、島崎さんの方も快諾されたというふうに思っております。

○司会 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、本日のブリーフィングは以上としたいと思います。お疲れさまでした。

—了—